

身以上の士から役長柄を出し、先陣なる役筒弓の次に飾り、侍大将もその營に長柄を立てた。これは軍陣の威を添へる爲の裝飾で、實用に供する目的でないから、長柄持は雜人であると記されてゐる。

オナガエコモノ 御長柄小者 藩侯の行列に、長柄の鎧を持つ小者で、單に御長柄とも、長柄御小人ともいうた。十二冊御定書の萬治二年六月割場の定書に、『長柄御小人者、定休日之外不參銀一日六分宛取立、過上有之者には爲褒美一日に一匁二分宛被下。』と見え、又同三年四月廿六日付御算用場の達には、領内百姓の家數に比例して長柄御小人三百人を徴發したことが見える。

オナリゴテン 御成御殿 前田綱紀のとき將軍台臨の爲特に本郷邸内に建築したもの。元祿十五年二月四日新始を行ひ、四月十一日竣成して綱吉は同月廿六日駕を枉げた。之に要した費用數十萬兩、普請奉行三員を命じ、總督は國老前田美作守孝行之に當り、總地積八千坪、建坪三千坪、棟數四十八、宏壯美麗、絶えて比類を見ず、老中以下來檢せるもの舉げて嘆賞したと云ふ。翌十六年十一月廿九日災に罹つて全部焼亡した。

オニガハ 鬼川 金澤の市内を流れ、五枚町大野堀から犀川の水を通じたもの。金澤城普請の時、宮腰から用水等を此の川に引入れたから御荷川の名を生じたといふが、運搬の用を足す程の水量でもないから、この説の當否を知らぬ。

オニガハバシ 鬼川橋 金澤木倉町から横傳馬町・塩川町へ往來する鬼川に架けた橋で、舊藩中は橋番を置いた。

オニノキバ 鬼の牙 ↓ヒムロソイタチ 水室の朔日。

オニノヤジマ 鬼寝屋島 今昔物語に能登國鬼寝屋島語がある。能登の海中に鬼寝屋島があつて、その地鮑を産すること甚だ多く、恰も河底の石礫に似て居た。是を以て光島の浦人彼の島に赴き、之を獲て國司に獻ずるを常とした。又鬼寝屋島から遠く洋中に猫島があるが、これは人の行く所でない。藤原通宗は嘗て能登守であつたが、その任終らんとする年、浦人を使役し、強ひて鬼寝屋島に航して鮑を探らしめたが、浦人等遂にその苛酷に堪へず、相率ゐて越後に遁れたと。鬼寝屋島は今の七ヶ島で、猫島は鮑倉島である。光島の浦は同じ文中に光の浦とも書せられ、現に光浦がある。

オニバス 鬼蓮 古跡考に、石川郡直江のふごといふ水溜に、寶曆の比から初めて鬼蓮が生ひ出て繁茂したとある。鬼蓮は現に近岡の入江に存するが、往時は河北潟縁にもつと廣く繁殖して居たと思はれる。直江村の記事は、湖水から離れた水溜である爲珍しかつたのであらう。

オニヘマツリ 御饗祭 石川郡の白山比咩神社では、古く加賀の七浦から魚介海産を獻る儀があつた。白山本宮神職次郎に、『三條院御時長和五年被寄進七浦御饗祭』といひ、舊神職古傳に『土御門院元久二年右大將家より御饗寄進、國中七浦七河。』とも見える。此の儀は室町の頃から中絶したのを、大正十五年再興し、五月六日加賀沿岸七漁業組合からその所産を獻納することにした。

オニヘマツリ 御饗祭 羽咋郡氣多神社の地に金澤御坊の在つた頃の遺構であらうか

祭儀で、舊四月八月の一日(今は五月・九月)一宮の饗儀で饗綱を曳き、その獲た魚を奉る。天正十一年九月朔日前田利家が饗を備へるため獵船一艘の諸役を免じた文書がある。

オニヤ 鬼屋 國至郡柳比庄に屬する部落。寶永元年郡方由來書に、この村領いたちに龍神から惣持寺開山鑿山に寄進したこわしうどといふ清水が存するとある。

オハグロオヤ 御齒黒親 能登に於いて女子婚期に近づく時は、その信頼する婦人を憑みて御齒黒親とし、御齒黒子たるものとの間に物品を贈答する風があつた。即ち女子の成人式であるが、實際齒を黒し眉を剃ることは、結婚して子女を擧げた後に之を行つた。

オハダケ 御島 江沼郡能美境に屬する矢田野新田九村、即ち西泉・大野・豊野・原田・中小島・袖野・稻手・宮田の總稱である。明治以後これらを凡べて矢田野と稱する。

オハナシ 御林 山林中潯有のものを御林と稱する。能登では寛文中七尾城址・末森城址及び各村の論地になつてゐるもの等十五ヶ所を擇んで鎌留御林と稱し、雜木の伐採は勿論、下草枯枝といへども採取を禁じたのがその極端である。元祿七年更に新御林を設定するに及んで前者を往古御林と稱した。後又各村數ヶ所の民有林を擇んで准潯有林となし、寶曆頃からそれを字附御林と呼んだ。享和元年以降改めて往古御林の外一ヶ村一ヶ所の御林格を存し、その他を百姓塚山とした。慶應三年に至り、他の領内一般と同じく、能登にも享和以降の御林にして林相の不適當なるものを廢し、新たに一ヶ村一ヶ所の御林選定を命じたが、時正に潯末に際したから、その實施せられたか否かは不明である。加賀に在つては

と思はれる。

オハナバタケ 御花島 白山々中には所々に御花島がある。御花島は必ずしも高山草本帶の特殊區域を指すのではなく、單に幾分の平坦地で花卉草本を混生してゐる所をいふのである。その尾添口登路に在るものは、千翠の鼻の絶巖を登つた所にあり、市・瀬温泉舊道では畜生谷の峽道を登り蔽くした所から五色の瀆・彌陀、原の間にある。又砂防新道では上飯場の上で、著しき瀆木帯なく早くも御花島に入り、別山の御花島は猿のつらとぞんにう塚との間の瀆木帯である。

オハナバタケ 御花島 石川郡高尾・御供田・畝田及び金澤野町三丁目に御花島といふ地があつた。それらを一向一揆時代の金澤御坊の御花畑のあつた地とする説もあるが信ずるに足らぬ。

オハナバタケ 御花畑 金澤城内新丸から東南に當り、本丸高石垣下の空地をいふ。寶曆火災前の圖を見るに、此の地に四筋の長屋があつた。寛永四年の土帳に、『御傍柴横地善九郎御花畑有之』とある御花畑も同地であらう。それを御花畑と呼ぶのは、往古城中本丸の地に金澤御坊の在つた頃の遺構であらうか